

佐事研だより

佐賀県公立小中学校事務研究会
編集発行人 会長 古川 治

会員各位

本年度もあっという間に 3 ヶ月が過ぎ、夏休みまで残りわずかとなりました。会員の皆様におかれましては、忙しい毎日をお過ごしのことと思います。暑くなりますが、子どもたちのように元気とやる気を持って、日々の業務に取り組んでいきたいものですね。

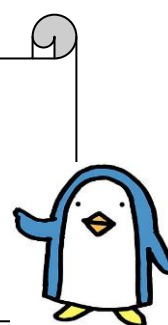
それでは、今回の「佐事研だより」をお届けします。

■ 共通テーマ 「各地区の支援室紹介」 ■

鳥栖・基山地区（鳥栖市）、神埼地区（吉野ヶ里町、神崎市）

■ フリーテーマ ■

- ・節電の取組 ～LED とデマンド～（伊万里・西松浦地区）
- ・ご存知ですか？フォントの力（唐津地区）



本年度の共通テーマは、昨年度に引き続き「各地区の支援室紹介」です。本年度から「事務主任」の職が新たに設置されましたが、それに伴い、各支援室には室長に加え、副室長も新たに置かれることとなりました。そこで、本年度は、室長さんに加えて副室長さんにもお願いして、各地区においてどのような取組をしているかを書いていただきました。詳細は以下の通りです。

共通テーマ 各地区の支援室紹介

(1) 鳥栖市東部学校運営支援室 副室長 樋口 嘉樹（弥生が丘小学校 主査）

鳥栖市東部学校運営支援室は、田代小、若葉小、弥生が丘小、基里小、田代中、基里中の 6 校で構成されています。今年度、事務長を新しく迎え、新体制でスタートしました。事務職員 9 名【事務長以下、主査 1 名、副主査 3 名、主事 4 名（内 1 名臨採）】と比較的若いメンバーで構成されており、3 校（若葉小、弥生が丘小、田代中）については、共同実施加配、大規模校加配がついているため複数配置校です。



鳥栖市の学校運営支援室は東西 2 つの支援室からなり、学校運営に係る共通課題については、東西合同学校運営支援室を開催して協議し、市教育委員会とも連携して、市内の学

校運営に資しています。昨年度は、学校予算（予算策定のルール化）、学校管理に係る規程（ガラスの破損規程、空調設備規程等）、事務補助員研修会、引継書の4項目について、東西学校運営支援室各1名の担当制で取り組み、一定の成果を出すことができました。今年度も、その基本路線は継承しながら、学校運営に係る共通課題については、東西合同学校運営支援室で取り組んでいきます。

さて、鳥栖市東部学校運営支援室の取組についてですが、「県費」「市費」「学校支援」業務に整理し、各担当主任を中心に計画を立て、室員全員で業務を行います。「県費」「市費」業務の精度・スピードアップを基本に、「学校支援」では、各学校区（田代中校区、基里中校区）の課題解決（EX：田代中学校大規模改修支援等）に取り組めます。

鳥栖市東部学校運営支援室では、『学校運営支援室』をより組織的に、より効果的に、より課題解決的な主体として進化・深化させるため、下記の3つの視点で業務を行っていきます。

- ① 共有フォルダを有効活用し、仕事の効率化、見える化、学校の課題解決化を図る。
- ② 支援室内複数配置校（若葉小、弥生が丘小、田代中）を支援室内の学校にローテーション勤務し、ルーチンワークの集中化を図る。
- ③ 当たり前となっている業務を疑う等、固定観念に囚われることなく、新しいアイデアを受け入れる寛容的風土を作り、より良い仕事の在り方を探る。

この3つの視点で業務を行う理由は、私たちの『学校運営支援室』が、概ね、平成20年度に共同実施を全県展開する以前から続いている共同実施＝総務事務（「帳簿点検」、「電算確認」「予算要求書確認」等）の枠を飛び越えることができているからです。

『学校運営支援室』を、「学校に係る教育的課題を解決する組織」としてステージアップするために、総務事務等のルーチンワークを効率化・スリム化し、それによって課題解決にあたる時間を捻出したいと考えます。事務長中心に室員9名で、頭擦り切れるまでアイデアを出しあい、楽しんで仕事を頑張っていきたいと思えます。

(2) 吉野ヶ里町学校運営支援室 室長 池田 洋 (吉野ヶ里町立三田川小学校 事務長)

1. 共同実施運営目標

吉野ヶ里学校運営支援室の教育目標や学校に対する様々な要望をより実現しやすくするため、共同実施と教育委員会の関係強化による学校支援をめざし、児童、生徒、保護者及び地域社会の要望に迅速に応え、教育支援及び学校運営に寄与していくことを目標にしたいと考えています。



2. 共同実施グループ及び共同実施組織の現状と課題

吉野ヶ里の小中学校は、神埼郡東部に位置し、三田川小・中学校、東脊振小・中学校の4校で組織された比較的小規模な組織です。近くには三田川自衛隊基地があり、そこに保護者も多いことから、4月の異動時期には学校もその影響を受け、転出・転入児童が多いのも、この地区の特徴の1つです。そのほかにも、予算面では小規模な地区にもかかわらず、潤沢な予算が確保されています。例えば、パソコン、電子黒板、空調機は当然ですが、印刷機、拡大機等もリース契約であるため新品です。人件費では、ALT、特別支援の補助員、町費講師等の10数名分が町で予算化されており、他にも環境面では、校庭が全面芝であり、4輪駆動の乗用型の芝刈機まで学校にあるのです。遊具管理施設点検も十分です。若干予算が少ない地区から異動してきた者としては、非常に驚かされることばかりでした。

ここまで、お話すればお分かりだろうと思いますが、こちらに異動して何が困ったかと言えば、やはり町費の予算執行が、内容・量ともに、かなりのボリュームがあるということです。4月は特に各種の契約のみならず、町費の人件費計算にも気を付けなければなりません。事務長として実務を少し離れていたこともあったのですが、4月は吉野ヶ里の町費のシステムに慣れるのに相当苦労しました。

一方で、支援室は、男性2名、女性3名で皆若く、その中1名は新規採用職員です。非常に高い能力を持っている方が多く、感心しています。

町費の起案、業務設計書、契約書及び結果確認書等の流れを共同実施のなかで効率化、定型化されてきたため、異動してきた私が一番助けられました。このように、高い能力に育成してくださった前室長の事務長さんには感謝に絶えません。ただ、問題点は町費の業務量が多いため、教育委員会等との運営上の協力がまだまだ必要であるということです。また、今後、どのような異動が行われても、この組織体の能力が低下することが無いように、高レベルを維持できるよう、支援室内で協力を行い、今後は、町教委と同じ視線でお互い協力し、スピード感ある学校運営組織を目指したいと考えます。

(3) 神埼市北部学校運営支援室 室長 橋間 和隆 (神埼市立脊振小学校 事務主任)



本年度、事務主任への昇任とあわせて室長に任命され、慌ただしくも充実した日々を過ごしております。当初、本支援室に事務長が配置されると期待していたので、事務主任として事務長を補佐し、組織力を高めて、所属する神埼市全体の教育力向上に貢献すべく支援室の運営を行うつもりでいました。ところが、事務長は配置されなかったもので、自分が室長として舵取りをすることになり、初めての業務に戸惑うこともあります。本支援室の前室長である副室長と、神埼市南部学校運営支援室長からいつも助けてもらっています。ただ、学校事務職員として採用されてから今年で11年目となり、今

後の自分のキャリア形成を展望すると、多くのことを学べるよい機会だと考えています。

本支援室は、小学校3校、中学校2校の事務職員5名で構成されています。比較的若い世代の事務職員で構成されていますが、室員は経験豊富で、相互に研鑽できる土壌が出来ていると思います。

本年度の本支援室の重点目標は以下のとおりです。

- (1) 室長を中心に、各室員が職名に応じた職責を果たし、学校事務職員という高い意識と使命感を醸成するための意識改革を図る。
- (2) 情報の共有化、相互支援を推進し、業務の効率化・平準化(大規模校支援)に努める。
- (3) 児童生徒が安全かつ安心して活動を行えるよう教育環境の改善を図る。
- (4) 長期的な支援室のビジョンを持つため、各室員同士が連携を密にし、異動に耐えうる組織体制づくりを行う。

上記目標を達成すべく具体的な取組は以下のとおりです。

- (1) 神崎市南部学校運営室と連携しつつ、支援室内の業務を役割分担し、各室員が責任感と使命感を持って業務を遂行する。
- (2) 施設共同点検に以外にも、高木剪定、遊具点検、害虫駆除などについても、支援室で一括して取り組み、業務の効率化を図る。また、施設台帳を作成し、長期的な視点での施設管理を行う。
- (3) 市教委との連携を密にしながら、予算要求様式の統一を行う。また、備品の共同購入を推進し、効果的な予算執行に努める。
- (4) 情報を共有化するため、事務職員が使用しているサーバー内のデータ管理を統一する。
- (5) 小中連携を中心とした校納金事務の在り方を研究する。
- (6) 教科書事務マニュアルの改訂を行い、マニュアルの活用と定着に努める。
- (7) 基本的な ICT 機器の操作を身に付ける。
- (8) 県統一の事務引継書を活用し、市費事務についても様式を検討する。

昨年度、神崎市に赴任し、一年間業務をこなしてみても、校納金事務や教科書事務等、教員の負担軽減のための取組は進んでいると感じました。5月に開催された共同実施推進協議会においても、教育長の評価は高かったです。

「神崎市教育の基本方針」の中に『「不易」と「流行」』というキーワードがあります。事務職員に当てはめた場合、自分の個人的な解釈では、支援室という組織が「変化対応力」を備えた組織体でなければならないと理解しています。「どのような成果を生み出せるか」という政策形成的な視点で、日々の業務に取り組みます。

フリーテーマ

(1) 節電の取組 ～LED とデマンド～

伊万里市では、本年度、耐震改修事業が実施されます。その一環として、屋内運動場の照明 LED 化工事が夏季休業中に行われます。

☆LED のメリット☆

長寿命のため、電球交換のコストが抑えられる。

発光の応答時間が短く瞬時に点灯することが可能なため、こまめに消灯することができる。

低い消費電力のため、電気代を削減することができる。

ご家庭で使用する場合は、初期費用が高い・高熱な場所に弱いなどのデメリットも考慮に入れておきましょう。

ほかにも、電気料金の削減のため市内小中学校 24 校中 16 校でデマンド契約を行っています。

デマンド契約・・・キュービクル（高圧受電設備）の設備がある施設の契約方法

電気料金＝基本料金（デマンド値）＋電力量料金

基本料金＝基本料金単価×実績最大需要電力（デマンド）となっているため、最大需要電力を抑えることが出来れば電気料金を低くすることが可能です。ただ、需要電力は 30 分単位で平均値を算出され、一度上がってしまった基本料金は最低 1 年間下がらないため、夏場や冬場に一齐に使用してしまい最大需要電力を上げてしまうと、その影響で基本料金が上がり、結果的に電気料金が高くなってしまいます。

デマンドを軽減するためには空調設備を同時に使用しないようにするなど、30 分間の最大使用電力を削減することが大切です。

学校による様々な工夫・・・

- 明確な使用規定をつくり、空調設備を稼働する際には、30 分ごとにスイッチを押す担当を決める。児童センターが学校にある場合には、児童センター職員とも情報共有をする。
- 安易に学校職員がスイッチを押さないように、鍵付きのスイッチボックスを設置する。

学校の空調設備にタイマーがなかったときは、事務職員がスイッチを押すためだけに朝早く出勤するなど、デマンド軽減の努力をしていました。今後も教育委員会と各学校事務職員が一丸となって、年間を通して節電に取り組んでいきます。（伊万里・西松浦地区）

(2) ご存知ですか？**フォント**の力

突然ですが、最近、私たち事務職員が提案をする機会が増えていませんか？大きな理由としては、共同実施組織によるマネジメント化が進み、共同実施を通じた問題解決案の企画ができるようになったからだと思います。

では、提案するときに注意しなければならないことはなんでしょうか？それは、いかに見やすい資料を作るか、というのが一つのポイントだと思います。見やすい資料であれば、論点の「見える化」が進み、より少ない時間と労力で結論を出せます。

今回は、資料を作る際、デザインのベースとなるフォント（字体）について説明をいたします。具体例を見比べながら、内容に適したフォントとはなんだろうかと考えていただけるきっかけになればうれしいです。



ー通常文ー

MS 明朝

通常文ではいろいろなフォントが使われますが、TPO を考えることも大切です。

MS ゴシック

通常文ではいろいろなフォントが使われますが、TPO を考えることも大切です。

メイリオ

通常文ではいろいろなフォントが使われますが、TPO を考えることも大切です。

通常文はメイリオが使いやすいです。特に和文と英文が混在していても違和感がありません。

ー文字の強調ー



MS 明朝（太字）

1 見出し

MS ゴシック（太字）

1 見出し

HGP 創英角ゴシックUB

1 見出し

見出しをつけるときは、MS ゴシック（太字）が一般的ですが、HGP 創英角ゴシックUBは上記のメイリオとセットで使えば、資料に一体感が出ます。

ー数字の強調ー



MS 明朝（太字）

↘**10** 万円コストカット

MS ゴシック（太字）

↘**10** 万円コストカット

Arial Black

↘**10** 万円コストカット

資料中のグラフで注目させたい数字があれば Arial Black にしてみてください。その数字が目飛び込んできます。

◇参考文献◇

吉澤準特『外資系コンサルが実践する資料作成の基本』日本能率協会マネジメントセンター、2014年

加藤智也『スライドデザインの心理学』翔泳社、2015年

(唐津地区)

お知らせ



第47回全国公立小中学校事務研究大会熊本大会

日 時 : 平成27年8月5日(水)～7日(金)

会 場 : 熊本県立劇場 他

大会テーマ : カリキュラムマネジメントの展開と学校づくり

熊本大会は第8次研究中期計画の2年次にあたります。戦略領域である「カリキュラム」を軸に、よりよい学校づくりの具現化に向けた理論研究・実践研究を通して、ミッションである「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」を追求し、その実現を目指します。大会2日目(8月6日)に行う分科会では、全事研本部のほかに、佐賀・福岡・長崎・宮崎・鹿児島・熊本支部の6分科会が提案をされます。佐賀県の分科会では、「アクティブ・ライブ～学校事務白熱教室～」として「統括事務長・事務長制度による共同実施と学校事務の確立」を提案し、全国の仲間と討議を行います。

現在、佐賀県は分科会事前申込数において、本部研究会も含めた全分科会中、一番の申込数となっています。まさに、佐賀県が全国から注目されている証左であると思います。今後もより一層の研究を重ね、全国に先駆けた取組ができる佐賀県でありたいと考えます。

◇ 編集後記 ◇

佐事研だより第88号はいかがだったでしょうか?各地区の室長・副室長様、お忙しい中原稿の執筆ありがとうございました。

「佐事研だより」についてご意見・ご要望等ありましたら、各地区の情報推進部員までお知らせください。

佐事研情報推進部

